はじめに

深々と降る雪の中、山も田畑も川も、どこを見ても白と黒だけの美しい世界が広がっています。村内でも雪の多い所では、道路脇の積雪がみるみるうちに大人の身長を超えました。そんな中でも時折みえる雲一つない青空。豪雪地帯だからこそ、そんな時には大人も子どもも関係なく思わず空を見上げて大きく深呼吸してしまうほど気持ちいいのかもしれません。とは言っても、大雪も晴れの日も関係なく元気いっぱいに活動する子ども達をみて、いつもたくましいなぁと思っています。

山村留学生は年末年始の帰省から 1 月 7 日に留学センターに帰ってきました。実家への名残惜しさもありながら、年末に帰省した時の倍以上も雪が増えたことに驚き、雪遊びやスキーの活動を思い浮かべワクワクしている姿が印象的でした。そして 3 学期に入り長いと思っていた 1 年間も気付けば残すところ 2 か月余りとなってしまいました。よく他の学期に比べ 3 学期はあっという間と言われますが、それと同時に大切な時期でもあります。4 月からの自分を振り返り、成長した部分、まだまだ足りない部分、できたこと、やり残したこと、様々な自分に気づきながらラストスパートしつつも新たなスタートも見据える、そんな時期ではないでしょうか。振り返れば三歩進んで二歩下がったということもあると思いますが、全てが経験。一歩ずつでも半歩ずつでも着実に進んでいることに自信を持ち、めげずに日々前進していってほしいと思います。

地域の皆様をはじめ日々お世話になっている皆様には、2 か月後の修園に向けて引き続きのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

長岡　悟

《 1月の活動カレンダー 》

1月

- 7日　帰村
- 8日　雪遊び
- 9日　アルペンスキー①
- 10日　通学路作り、左義長（上百瀬地区）
- 15日　左義長（阿別当・坂上地区）
- 16日　クロスカントリースキー①
- 18日　ホームステイ開始
- 27日　センター入り

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

１／８　雪遊び

雪合戦をしたり、雪洞やテーブルとイスを作ったり、そりで滑ったりして、午前中はたくさんの雪の中で遊びました。黙々と雪を掘り進める人、雪の上に寝転がって休憩している人、寒くなって先にセンターの中で温まる人、などなど様々な姿がありました。

午後からは、これからのアルペンスキーの活動に向けてセンターの裏でスキーの練習をしました。片脚だけ板を付けて歩いてみたり、緩やかな斜面を八の字で滑ってみたりして、ゆっくりとスキーに慣れていきました。終わるころには「スキー楽しみだね！」と留学生同士で話していました。

１／９　アルペンスキー①

雪国のスポーツを体験するため、タカンボースキー場にてアルペンスキーの活動を行いました。第一回目のスキー活動ということもあり一人ひとりのレベルを確認してから活動をスタート。中にはスキーが初体験という留学生もおり、「リフトなんて絶対ムリー！」と緊張した様子ありましたが、活動終了までには全員がリフトに乗ってゲレンデを滑れるようになりました。

１／１０　通学路作り

翌日からの３学期登下校のために、雪に埋もれた通学路をみんなで整備する活動を行いました。中学生と小学生の希望者がかんじきを履いて先頭を歩き、その後ろから長靴を履いた人で踏み固めて行きました。

代掻きの時のように少しずつ前進するため、「暑い！疲れる！」と途中苦しい場面もありましたが、１時間程かけて約 700mの通学路を踏み固めることができました。

１／１６　クロスカントリースキー①

　初めてのクロスカントリースキーを行いました。アルペンスキーとは違ってかかとが浮くスキー板を履き、「面白い！」「変な感じ…」と様々な感想が。初めは探り探りで練習していましたが、慣れてくるとスイスイと動きまわっていました。この日は良い天気の中、スノーバレー利賀へ行き、広いゲレンデを登り降りしたり、ふかふかの雪の上を歩いたり、動物の足跡を観察したりと、思い思いに楽しみながら練習することができました。

冬休み短期行事

　留学生がそれぞれの実家に帰省している冬休みの間、12 月 25 日～28 日は、全国から 25 名の小中学生が利賀を訪れ、短期行事を行いました。初日から雪がどっさりと降り積もり、３泊４日、雪遊びをめいっぱい楽しみました。３日目には、地域のお宅に日中お邪魔させていただき、わら細工や餅つき、おはぎ作りなど、様々な体験をさせてもらいました。「こんなに雪見たの初めて！」「帰るのは寂しいけどまた来たい…」と皆充実した時間を過ごせたようです。

〈　日常の様子　〉

「キツネいるよ！」と
食堂からキツネを発見&観察！

自由時間にもかまくら作り

センターの裏で、スキーの練習

左義長に参加！書き初めを燃やし、
お餅を焼いて食べました。

利賀みらい留学に寄せて

私は、平成２８、２９年度に利賀中学校に最初の勤務をしました。そのころ、山村留学推進協議会が発足しました。はじめは、「アーバスを合宿所にした山村留学」についての検討もなされていたと記憶しています。今年度４月の入園の集いのとき、「十年ほど前、山村留学推進協議会初代会長　故城岸一明さんが、東京の「育てる会」事務局を訪ねていらっしゃったのが、
南砺利賀みらい留学の始まりでした」と伺いました。
長期にわたる、地域の方々のご尽力により、山村留学が実現しました。

そのお陰様で、今までの約十か月、山村留学生と利賀在住の生徒が互いによい刺激を与え合い、よりよく成長するきっかけとなりました。落ち着いた学校生活を送りながらも、新しく工夫した活動を行っています。

今年度のメンバーで活動するのもあと約２か月となりました。どの生徒にとっても未来につながる学校生活となるようにしていきたいと思います。
地域の皆様、「育てる会」の皆様のさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

扇澤　文夫　先生
（ 南砺市立利賀中学校　校長 ）

「利賀みらい留学」が開校し早一年が経とうとしています。当初、どんな子ども達が来て、どんな活動をするのだろう？親元を離れ、小学生が一年間利賀で生活できるのか？と疑問にも感じていました。しかし、活発で積極的に行動し、利賀の子ども達とはもちろん、里親の皆さんや地元の方とも仲良くしているのを見て大変感心しています。地元の子ども達にとっても児童生徒数は増え、自分たちとは違った環境で育った子ども達と接することで、大きな影響と刺激を受けていると思います。

このコロナ禍で、利賀の多くのイベントが中止になりました。イベントを通じて村民との関わる機会も限られたように思います。通常なら留学生には、もっと利賀の魅力を分かって貰えたかも知れません。この一年間、限られた中での活動になったと思いますが、この利賀での体験は、生涯忘れることはないでしょう。
コロナが終息し、大きくなったら、是非また利賀に遊びに来て下さい。

最後に、この山村留学が開校するにあたり、何年も前から計画し今日までご尽力頂いた関係者の皆様や留学生を受入れ頂いているご家庭の皆様に感謝申し上げ、これからも更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

中河　公伸　さん
（ 育成会会長 ）

《くま爺のつぶやき》

南砺利賀みらい留学
統括主幹　山本

10 年ほど前の冬のこと。山村留学を希望する親子と学校見学にでかけた時、学校の図書室で「昔の暮らし再現」という冊子が目に留まり読んで衝撃を受けた。今から 60 年～80 年の子どもたちを取り巻く環境や暮らしぶりが紹介されていた。遠くまで歩く遠足、朝夕の家族の役割、夕ご飯のルール、子どもたちの遊び、年上の子どもから教わり大きくなったこと、便利なものがなく、ないない尽くしの生活。人と人とのつながりがあり、助け合いがあり、みんなで工夫し、乏しさの中の豊かさが描かれていた。「昔の暮らし再現が山村留学のキーワードなのだ」とあらためて確認した次第。昔と現在では生活スタイルも子どもを取り巻く環境も異なるが、ひと昔前の暮らしを大切にしていきたい。